

美術館だより

Contents

- 1 企画展「土とともに 美術にみる〈農〉の世界
—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」より (近代美術館)
- 2-3 企画展紹介「土とともに 美術にみる〈農〉の世界
—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」 (近代美術館)
- 4 企画展紹介「岡倉天心『東洋の理想』から120年 天心と画家たちのアジア」 (五浦美術館)
- 5 館長自己紹介と特別展示「片口直樹—赤い桶白い桶と落ちにけり」 (五浦美術館)
- 6 事業レポート (近代美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業 (近代美術館)
- 8 インフォメーション

No.125

Jun 16, 2023

茨城県近代美術館
「土とともに 美術にみる〈農〉の世界
—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」より



ジュール・ブルトン《朝》 1888年 山梨県立美術館蔵

すがすがしい朝の空気のなか、ひとりの農婦がスコップと水甕をもち畑仕事に向かっています。周りにはアザミの花が咲く草原が広がり、女性の服装から、季節は夏から初秋頃のようにです。この作品は、1887年のフランスのサロンで賞賛を受けた《労働の終わり》(1886-87年、ブルックリン美術館、ニューヨーク)が元になっています。《労働の終わり》では、夕暮れ時、スコップを持つ女性の他に収穫したジャガイモの袋を背負って運ぶ二人の女性が描かれていますが、本作は、元の作品から女性ひとりを独立させ、朝の情景に構成し直しています。逆光のなか大地を踏みしめる女性の、

力強い足取りと凛とした表情が印象的です。

作者のジュール・ブルトン(1827-1906)は、ベルギーに近いフランス・アルトワ地方のクリエール村に生まれ、農民画家として活躍しました。郷土の農民たちをモデルにした現実の観察と理想化を融合するスタイルで、早くからアカデミズムの画壇で認められます。日本で農民画家として知られるジャン=フランソワ・ミレー(1814-1875)より一回り年下で、作風は違えどミレーとも意識しあう仲でした。本展では、フランスや日本の画家による多彩な農婦像もみどころのひとつです。

[近代美術館 主任学芸員 永松左知]

企画展紹介 土とともに 美術にみる〈農〉の世界 —ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—

会 期：2023(令和5)年7月8日(土)～9月3日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日
 ※ただし、7月17日(月・祝)は開館、翌18日(火)は休館。
 ※会期中、一部作品の展示替があります。
入 場 料：一般1,100(1,000)円／満70歳以上550(500)円／
 高大生870(730)円／小中生490(370)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※夏休み期間を除く土曜日は高校生以下無料
 ※8月19日(土)は満70歳以上の方は無料
主 催：茨城県近代美術館
後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
 産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
協 賛：株式会社常陽銀行
 ◆本展はパートナー企業からの支援を受けています。

展覧会の概要

近年、気候変動や武力紛争によって生じる食糧危機が身近となるなか、わたしたちの命を支える〈農〉があらためて注目されています。本展はこの〈農〉をテーマとするものですが、ここでの〈農〉とは、田畑を耕して農作物を作ることに加え、農家の人々や農村の風景を含め、農業をとりまく諸々のことがらを指します。

絵画作品には昔から、農作業をする人々の姿が描かれてきました。19世紀には、現実をありのままに描く自然主義芸術のモチーフとして、また産業革命後には都会人を癒す風景として、田園や農民がよりクローズアップされます。一部の画家たちは、とりわけ働く農婦の姿に健康的な美を見出し描く対象としました。一方で、農村における貧困や農民運動などをテーマとする画家たちも登場します。第二次大戦後の高度成長を経た日本では、あらためて人間と自然との関係に注目し、独自の感性で〈農〉にアプローチする作家たちが現れています。

本展では、〈農〉をめぐる多様な作品を5つのテーマに分けて考察します。日本各地の美術館などから選りすぐった約100点の作品により、美術にみる〈農〉の世界をお楽しみください。

展覧会構成とみどころ

◎〈農〉をめぐる近現代の美術作品100点以上を、多彩なジャンルから紹介！

農業国フランスで描かれた農村風景や農民の姿、近代日本絵画における田園と農家の人々の情景、農民運動を主題とする版画、農業にまつわる多様な現代アートなど、〈農〉をとりまく美術作品をたっぷりご紹介します。

第Ⅰ章 田園風景の発見 フランスと日本

◎フランスと日本の画家たちによる自然主義的な農村風景

19世紀のフランスと明治期の日本では、現実の自然をありのままに描く風景画がさかんとなり、農村や農民が画題として取り上げられました。本章ではバルビゾン派のミレーや印象派のピサロらによる農村風景のほか、浅井忠が日本の農家を描いた油彩画、フランス郊外のグレーを描いた秀逸な水彩画などを展示します。



ジャン＝フランソワ・ミレー
《刈り入れ》1866-67年
ひろしま美術館蔵



浅井忠《フォンテンブローの夕景》1901年
千葉県立美術館蔵

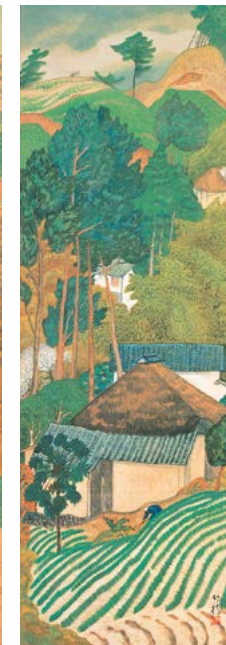
第Ⅱ章 ふるさとへの想い わが愛しき農村

◎明治から昭和の画家たちが描いた、ふるさとの風景

明治時代には日本人口の約7割、第二次大戦終戦直後には約5割が農家でした(農家人口:農家の世帯員数)。農村出身の画家たちの中には、郷里にとどまる場合も、あるいは郷里を離れて都会や海外へ出た場合も、愛する故郷を度々描いた者がいました。本章では小川芋銭や小野竹喬などの近代日本画に描かれた農村を中心に紹介します。



小野竹喬《鳥二作(早春・冬の丘)》1916年
笠岡市立竹喬美術館蔵 *後期(8/8-9/3)展示



第三章 畑のマリア モデルとしての農婦と子

◎ミレーやゴッホらの有名画家による多彩な農婦のイメージ

ミレーやピサロらが描いた、魅力的な農家の女性像に加え、オランダ時代のゴッホによる農婦像を紹介。福田豊四郎らによる日本画には、農家の女性とともに傍らに子どもたちが登場します。画家たちは、農作業や家事育児に励む女性たちに、労働の尊さと健康美を見出しました。



カミュ・ピサロ《立ち話》1881年頃
国立西洋美術館(松方コレクション)蔵



フィンセント・ファン・ゴッホ
《座る農婦》1884-85年
公益財団法人諸橋近代美術館蔵



福田豊四郎《秋田のマリア》1948年
秋田県立近代美術館蔵 *前期(7/8-8/6)展示

第四章 現実と抵抗と はたらく農民への共感

◎弱者への共感、農村問題への関心に基づいて表された 農民たちの姿

農村は、理想郷のごとく描かれることもありましたが、実際の農民たちは、生活上の困難に直面することが多かったといえます。本章では、そうした農民の現実を見つめ、既存の権力に抵抗し立ち上がる農民運動をテーマにした作品に焦点を当てます。鈴木賢二や飯野農夫也ら、北関東を拠点に活動した日本の版画運動家たちによる木版画などを展示します。



鈴木賢二《忍草(俺たちの土地)》
1963年頃 栃木県立美術館蔵

第五章 アートの土壌としての農

◎多様なアプローチで〈農〉にせまる現代アートの競演

福田玲子、野沢二郎、大森薫子ら茨城ゆかりの作家たち、草間彌生、米谷健+ジュリア、雨宮庸介、スツニ子!ら国際的に活躍するアーティストたちによる、多様な〈農〉へのアプローチを紹介。宮城在住の日本画家、浅野友理子による茨城のほしいも産業をテーマにした新作も。〈農〉にまつわる魅力的な現代アートが一堂に会します。

[近代美術館 主任学芸員 永松左知]



草間彌生《南瓜》
1984年
町田市立国際版画美術館蔵



雨宮庸介《Apple》
2023年
作家蔵

会 期：2023(令和5)年7月22日(土)～9月3日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円

／高大生210(150)円／小中生150(100)円

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方は無料

※7月22日(土)、9月2日(土)は高校生以下無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

岡倉天心(覚三)の英文著作『東洋の理想』(OKAKURA Kakuzo “The Ideals of the East”)が明治36年(1903)に出版されてから、120年が経ちました。「アジアはひとつなり／Asia is One」という有名な一節で始まる本書の中で天心は、アジアの宗教的・文化的一体性というイメージを提示した上で、特に日本美術史に関して主に中国とインドからの影響や関係について論じています。

天心が日本美術の源流をアジアに求めたのと同じように、横山大観を筆頭とする日本美術院の画家たちも、アジアを主題とした作品を数多く制作しました。画家たちは、広くアジアに目を向けることで、日本画の在り方を模索していきました。

本展では、茨城県近代美術館の所蔵作品を中心に、中国の故事や仏教説話に取材した歴史画、画家が実際にアジアを旅し、現地での体験をもとに描いた作品、また、現代の画家による仏教をテーマに描いた作品など、広くアジアを主題に描いた近現代の日本画を紹介します。

みどころ

①中国の故事や仏教説話など、アジアに取材した作品を紹介します。天心の指導を受けた画家たちは伝統的な画題に西洋の彩色技法を取り入れるなど、新しい日本画の創造に力を注ぎました。木村武山の《阿房劫火》は、秦の始皇帝が造立した阿房宮が項羽軍によって焼き払われる様子を描いた歴史画です。武山の代表作である本作は、近代国家にふさわしい新たな歴史画を描こうと奮闘する武山の姿勢が伝わる作品です。

②アジアを旅した画家たちの作品を紹介します。『東洋の理想』は、天心が明治26年(1893)に中国、明治34年(1901)にインドを旅した経験に基づいて書かれています。横山大観や堅山南風がインドを旅して現地取材した作品を制作したのも、天心の影響によるものです。戦後もまた、多くの画家たちが自らの足でアジア諸国の土を踏み、現地での体験を通じて実感したイメージを作品に昇華させていきました。

③現代の画家による、仏教をテーマに描いた作品を紹介します。生と死、愛をテーマに描き続けた村松秀太郎。また、一貫して仏教を主題に制作している畠中光享の作品を展示します。院展とは別の舞台で活躍する二人は、アジア各国に取材しながら、人間の根源的な問題に向き合っています。二人の画家が情熱を注いだ力作をお楽しみください。

[天心記念五浦美術館 学芸員 木澤沙羅]



橋本雅邦《維摩居士》
1885年頃
茨城県近代美術館蔵



横山大観《隠棲》
1902年
茨城県近代美術館蔵



木村武山《阿房劫火》1907年 茨城県近代美術館蔵



菊川三織子《花影》1995年
茨城県近代美術館蔵



梅原幸雄《線香花火》1993年
個人蔵



村松秀太郎《独鈴》1990年
茨城県近代美術館蔵

館長自己紹介と特別展示

片口直樹 一赤い椿白い椿と落ちにけり (4月29日[土・祝]～6月11日[日])

本年度から分館長職を命じられました。茨城大学教育学部では23年に亘って教育に携わりましたが、大学に奉職する前に、郡山市立美術館で準備室から約5年、その前はいわき市立美術館で約5年と、学芸員として公職をスタートしましたので、ほぼ30年ぶりの美術館勤務です。昼食をとるレストランからは、いわき市の海岸が一望され、学芸員時代の初心が甦ってきます。

また、長く所長・副所長を務めていた茨城大学五浦美術文化研究所「六角堂」の方が分かりやすいでしょう。ここでは、天心記念五浦美術館にとってもお世話になっていたのも、いささかでも恩返しができる機会だと感じています。しかも着任早々の企画展「椿×名品展」に関連して、茨城大学で同僚だった片口直樹先生(現茨城大学五浦美術文化研究所長)の特別展示に立ち会えるという奇遇もあり、重ねて嬉しいことでした。

大学教員時代には、学芸員魂がうずいて、「六角堂展」という企画を立ち上げました。岡倉天心は、画家が描いた襖絵に囲まれて生活していました(天心記念五浦美術館に復元)。六角堂には床の間がありますから、絵を掛けて眺めていたはずなのです。天心の思いを現代に再現してみようと茨城ゆかりの作家に無理をお願いして、天心邸、六角堂で作品展示を実施しました。県北芸術祭に協賛した際の展示では片口先生にご協力いただき、そこで選ばれたモチーフが椿でした。

思い返せば、これは偶然ではなく、岡倉天心が住み始める前から五浦には椿磯がありました。天心は、五浦とボストンを往復しつつ構想した『茶の本』で、茶木を「椿の女王」と呼んでいました。なので、天心記念五浦美術館の住所が「大津町椿」で、レストランがそれにちなんで「カメラ(椿)」となっているのです。すべて、この地の磁力が皆を引き寄せている気がしています。

さて、特別展示では、エントランスホールに新作が並び(写真参照)、映像コーナー上部壁(2020年)、図書コーナー上部壁(2016年)と、過去の展示で茨城大学五浦美術文化研究所の天心記念館や天心邸を飾った映像に導かれて、「椿×名品展」へと進みます。展示室を出ると、手作り椿のコーナーから長い廊下の奥に、《すくう》の大作が見通せるという趣向で、展示室の内外が見事に椿づくしになりました。

片口氏の絵画は、写真的な写実に見えながら、画面に近づいていくと輪郭がぼやけていって、ゆったりと



《すくう》(左) 《そえる》(右)

した筆さばきと薄塗りの絵の具の層が見えてくるという、きわめて戦略的な方法論が特色です。写真のような解像度を期待して近づいていくと、途中から「画面上の色面と形態を見る」体験(モダンアートの大原則!)が観者に訪れて、モチーフの意味の解体を迫るのです。実際、片口氏の画面の下には、何層もの異なるイメージが塗りつぶされていて、画家自身もイメージが確定することを避けているかのようです。時間を伴った絵画という意味で、映像との親和性が高い作家というべきでしょう。

最新作では、新しい試みとして、モチーフの背景を黒く盛り上がるほどの絵の具で塗りこめています。これによって、椿自身が光を放っているような不思議な効果が生まれています。来館者は、最初にこの作品を眺めて「椿×名品展」を鑑賞し、帰り際に、またロビーでこの作品の前を通ります。そのとき「最初と違う」という印象を抱いていただければ、「椿×名品展」と特別展示「片口直樹一赤い椿白い椿と落ちにけり」の相乗効果があったのだと思います。

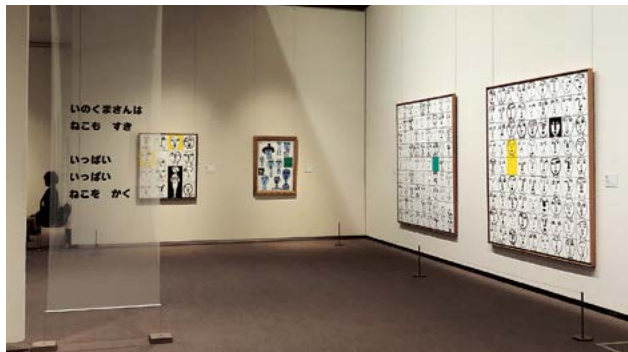
[天心記念五浦美術館長 小泉晋弥]



新作《Your Camellia》を前に片口直樹氏(左)と筆者(右)

多彩な創作活動で知られる画家・猪熊弦一郎（1902-1993）の作品の魅力をこどもたちにもわかりやすく紹介した絵本『いのくまさん』（2006年刊行）。詩人・谷川俊太郎の軽妙な文章のもと、ページをめくるたびに猪熊作品の鮮やかな世界が広がります。

この絵本をもとに構成した本展では、絵本のイメージを実際の作品で具現化するべく、展示会場に谷川の言葉を大きく配したり、目をひくユニークなケースに作品を展示したりと、こどもたちにも楽しんでもらえる展示会になるよう工夫しています。



展示会場風景

会期中いくつかのイベントを計画しましたが、本稿では、これまでに終了したイベント（5月16日現在）2つをご紹介します。

キッズ・デイ

猪熊弦一郎は、こどもが美術に触れることを大変重要視していました。また猪熊は、美しい空間でいい作品を見て、新鮮な刺激を受け、心が元気になる場所であることを美術館に求め、「美術館は心の病院」という言葉も残しています。そんな猪熊の思いにこたえるべく、いつもは美術館に来館しにくい小さなお子さんとその保護者の方々を対象に、「キッズ・デイ」を、5月5日（金・祝）に設けました（6月17日（土）にも設定しています）。

当日は、展示室内で少し大きな声で会話しても大丈夫なように館内表示を行い、常時設置している授乳コーナーに加え、休憩室も特別に設け、周囲に気兼ねなくつろいでいただけるようにしました。また、事前申込制による対話型の作品鑑賞会「家族でわくわくミュージアム」を開催。3歳～6歳程度のこどもたちとその保護者の方々 31名が参加し、当館職員の問いかけや案内にもとづきながら、楽しく作品を鑑賞したり、ちょっとしたワークショップに取り組んだりしました。



家族でわくわくミュージアムの様子

講演会

5月14日（日）には、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館学芸員の古野華奈子^{ふるの}さんを講師にお招きし、講演会「猪熊弦一郎と『いのくまさん』」を開催しました。同館は猪熊弦一郎の全面的な協力のもと1991年に開館し、猪熊本人から寄贈を受けた約2万点の猪熊作品を所蔵。本展の出品作もすべて、同館から拝借しています。また、永年同館に勤務され、猪熊について研究を重ねてこられた古野さんは、絵本『いのくまさん』の企画者でもあります。

講演会では、様々なお話をさせていただきましたが、とりわけ絵本『いのくまさん』刊行にあたっての次のエピソードには、聴衆一同、驚かされました。

猪熊の作品世界を、短い言葉で的確に表現できるのは谷川俊太郎氏しかいないと考えていた古野さん。交渉の後、谷川氏の執筆が決まり、古野さんはダンボール一箱分の資料等を谷川氏へ送りました。ほどなく、谷川氏から古野さんへ、直接電話がありました。電話で数分話をした後、なんとその翌日、編集者のもとへファックスで、『いのくまさん』の文章（刊行された絵本と一言一句変わらない文章）が送られてきたそうです。（古野さんのもとへはさらにその翌日、編集者から谷川氏のファックスが届いたそうです。）

古野さんでなければ語ることの出来ないエピソードに満ちた、充実した講演会でした。



講演会の様子

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

—パートナー企業とともに創りあげる芸術文化振興の新たな取り組み—

地域社会への貢献を理念に掲げ、より良い社会づくりに取り組まれる企業等と美術館がパートナーシップを結び、さらなる連携・協働を図っていくことで美術館の活動を一層充実させていこうという新たな取り組みが4年目を迎えました。今年度からは、つくば美術館と天心記念五浦美術館を加え、3館体制で事業を展開してまいります。

事業の詳細は当館HPでご覧いただけます。 <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>

◇これまでの実践成果

<企画展の充実>

従来の展覧会予算に加え、パートナー企業支援金を有効に活用して、魅力ある充実した企画展を開催します。

- 令和3年度 いわさきちひろ展 (メディアアート2作品を展示)
ランス美術館コレクション (開催費用の一部を負担)
- 令和4年度 速水御舟展 (開催費用の一部を負担)
- 令和5年度 美術にみる〈農〉の世界 (開催費用の一部を負担)



速水御舟展オープニング

<広報活動の充実>

パートナー企業の支援金や役務の提供を活用して、これまでにない積極的な広報活動を展開しています。



常陽銀行デジタルサイネージ



茨城交通バス車体広告



関東鉄道バス車体広告



水戸駅大型ボード



水戸駅デジタルサイネージ



大型フラッグ

<教育普及活動の充実>

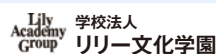
小学校の教育活動として来館する場合のバス借り上げ料等を、パートナー企業支援金で助成します。展覧会鑑賞をはじめ対話型アートツアーやワークショップなどの体験をとおして、子どもたちの豊かな感性と創造性を育みます。昨年度までに55校 2,041人が参加しました。今年度も27校が来館する予定です。



パートナー企業の皆様



近代美術館友の会



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

6月～9月のご案内

茨城県近代美術館

〈企画展・関連イベント〉

〈土とともに 美術にみる〈農〉の世界

ーミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまでー
7月8日【土】～9月3日【日】

・講演会「地母神、母、乙女ー農村の女性はどうか描かれたか」
講師：馬淵明子氏（日本女子大学名誉教授・前国立西洋美術館長）
期日：7月29日【土】午後2時～午後3時30分
会場：地階講堂
定員：250名 ※要事前申込／参加無料

・アーティスト・トーク「りんご、石、人」
講師：雨宮庸介氏（本展出品作家）
期日：8月27日【日】午後2時～午後3時30分
会場：地階講堂 ※申込不要／参加無料

・学芸員による鑑賞講座
講師：永松左知（本展担当学芸員）
期日：8月5日【土】午後2時～午後3時
会場：地階講堂 ※申込不要／参加無料

・キッズツアー「アートの〈農〉を旅してみよう」

対象：小学生以上
講師：永松左知（本展担当学芸員）
期日：8月16日【水】午後2時～午後3時
会場：企画展示室 ※申込不要／要企画展チケット

・ワークショップ「農カラーで草木染め体験」
★農カラー：農業廃棄物を利用して作り出した色のこと
講師：フタシバ（染色クリエイターユニット）
期日：8月20日【日】午前10時～午後3時～
会場：地階講堂
定員：午前・午後 各15名程度
※要事前申込（Webのみ）／要企画展チケット及び参加費
1,000円（申込多数の場合抽選、7月14日【金】まで申込受付）

〈所蔵作品展 第1展示室〉

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 夏〉

前期6月17日【土】～7月30日【日】
後期8月1日【火】～9月18日【月・祝】

〈所蔵作品展 第2展示室〉

〈ワカラナイ ノ ススメ〉

6月17日【土】～9月18日【月・祝】

〈アートフォーラム展示〉

〈複製画で迎えるミレー・ゴッホ物語〉

7月4日【火】～9月18日【月・祝】

〈その他のイベント〉

・家族でわくわくミュージアム
期日：9月2日【土】小学生＋大人（保護者）
9月8日【金】乳児＋大人（保護者）
9月16日【土】幼児＋大人（保護者）

会場：1階所蔵作品展展示室他
定員：各回5組20名程度
※要事前申込／参加費：要所蔵作品展チケット（土曜日は高校生以下無料）

・子どものためのオープンワークショップ 2023夏

期日：8月25日【金】～8月26日【土】

会場：地階講座室、会議室 ※参加費 50円（行事保険加入料）

・令和5年度第1回美術館セミナー

期日：8月4日【金】
会場：地階講堂
定員：80名 ※要事前申込／参加費：無料
対象：県内教員等

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

〈土曜講座〉

時間：各日午後1時30分～

会場：2階アルスホール

料金：無料

7月15日【土】

・第4回「美術に見る〈農〉の世界」

【講師】永松左知（茨城県近代美術館主任学芸員）

8月19日【土】

・第5回「天心と画家たちのアジア」

【講師】木澤沙羅（茨城県天心記念五浦美術館学芸員）

〈貸ギャラリー一展〉

6月20日【火】～6月25日【日】

・第1展示室…30周年記念 游美会日本画展【絵画】

・第2展示室…第33回茨城自然写真の会写真展【写真】

7月4日【火】～7月9日【日】

・武蔵野美術大学校友会 第20回茨城支部展【総合】

7月11日【火】～7月23日【日】

・令和5年度茨城県移動展覧会「茨城の美術セレクション」

【総合】

7月27日【木】～8月6日【日】

・つくばメディアアートフェスティバル2023【映像】

8月8日【火】～8月20日【日】

・INTERPLAY —14人の視線（まなざし）と表現—【絵画・彫刻】

8月22日【火】～8月27日【日】

・夏休みアート・マルシェ 2023作品展【絵画・立体】

8月29日【火】～9月3日【日】

・日中韓芸術展【総合】

9月12日【火】～9月18日【月・祝】

・ヴィジュアルコミュニケーション展2023【総合】

9月26日【火】～10月8日【日】

・脈流×鼓動 —筑波アートの半世紀【総合】

茨城県天心記念五浦美術館

〈企画展・関連イベント〉

〈再興第107回院展 茨城五浦展〉

6月23日【金】～7月17日【月・祝】

・出品画家によるギャラリートーク

講師：倉島重友氏（日本美術院同人・評議員）

期日：6月23日【金】午前10時～午前10時50分

会場：展示室 ※要企画展チケット

・那波多目功一氏（日本美術院同人・代表理事）、

倉島重友氏によるサイン会

※第107回院展図録にサインします。

期日：6月23日【金】午前11時～

会場：展示室出口

定員：当日先着50名

・展覧会担当によるギャラリートーク

期日：7月2日【日】午後1時30分～（約60分）

会場：展示室 ※要企画展チケット

〈岡倉天心「東洋の理想」から120年

天心と画家たちのアジア

7月22日【土】～9月3日【日】

・講演会「いま、「東洋の理想」から学ぶこと」

講師：古田亮氏（東京藝術大学大学院美術学教授）

期日：7月29日【土】午後1時30分～（約90分）

会場：講堂

定員：114名 ※事前申込優先、先着順

・展覧会担当によるギャラリートーク

期日：8月12日【土】、9月2日【土】 各日午後1時30分～（約30分）

会場：展示室 ※要企画展チケット

〈間島秀徳展 天地無常〉

9月13日【水】～11月26日【日】

〈その他のイベント〉

・ワークショップ「金銀砂子de缶バッジ」

期日：7月1日【土】午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室 ※要企画展チケット、当日先着順

定員：各回20名程度

・来て・見て・発見！アートツアー for kids

期日：7月8日【土】午前10時～午前11時30分

会場：展示室、講座室

定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで）

※要事前申込（先着順）、無料

・ワークショップ「揉み紙でブックカバー」

期日：8月5日【土】午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室 ※要企画展チケット、当日先着順

定員：各回20名程度

〈映画会〉

会場：講座室／定員：各回114名

（当日受付先着順・事前予約可）／無料

時間：午前9時45分～、午後1時30分～

・7月9日【日】「海底王キートン」59分

・8月20日【日】「アララ・ドロン」のソロ」126分

・9月17日【日】「天使の詩（うた）」104分

〈貸ギャラリー一展〉

・8月2日【水】～8月6日【日】

古布創作ハンドキルト 佐藤のり子個展

・8月23日【水】～8月27日【日】

佐藤義文 回顧展

・8月30日【水】～9月3日【日】

第10回双風展—絵画表現の行方—

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合があります。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町椿2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日來館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます） ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

〈お知らせ〉

①昨年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、友の会の行事を順次再開いたしました。今年度も美術鑑賞旅行や絵画講習会、講演会等を計画しておりますので、会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。天心記念五浦美術館でお申し込みの場合は、入会申込書の提出と入会金のご入金を確認後、2週間以内に会員証をお届けいたします。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）または県天心記念五浦美術館（☎0293-46-5311）にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>

